

田富小だより

2月2日は、節分でした。豆まきの他、ヒイラギの枝にイワシの頭を刺して玄関先に飾ったり年の数だけ豆を食べたり、各家庭で様々な節分の習わしが行われたことと思います。子供たちには、日本の伝統行事に親しみ、日本文化を受け継いでいったほしいと思います。

さて、節分の鬼は色によってそれぞれ、赤は欲張りな心、青は人を憎む心、黄色はわがままな心、緑は怠け心を表しているという説があります。わがまま鬼、怠け鬼、ふざけ鬼、怒り鬼、忘れ鬼、ちらかし鬼、ゲームやりすぎ鬼など、子供たちの中にもいろいろな鬼がいます。油断しているとすぐに心の中に入り込んでくる鬼。子供だけでなく、私たち大人も気を付けなければと思います。



子供を かわいがるとは その2

ある教室での出来事です。Aさんが教室の後ろで座って泣いていました。自分の順番まで待つことができず割り込みをしたことを友達に非難され、その結果担任から指導されたからでした。「順番を待ちきれないほどやりたい。」という意欲は素晴らしいと思います。しかし、だからといって順番を守らなくてもいいという理由にはなりません。担任もAさんの気持ちを受け止めつつも、順番を守らないことは許しませんでした。それは、「決まりを守る」という社会で生きていくために必要なことを学ばせるためでした。しばらくするとAさんは自分の順番に並び、自分の番を待つことができました。Aさんも周りにいた友達も笑顔でした。担任は、「順番を守ってみんなと一緒にするって楽しいね。」と言葉をかけました。この担任のように、子供が望ましい行動をした時に言葉にして価値付けてやるのが、大人の果たすべき役割です。

一方、社会のルールや決まりを破ることを学ばせることは、避けなくてはなりません。「フォートナイト」というオンラインゲームを御存じでしょうか。本校でも複数の児童がプレイしている実態があります。このゲームは、残虐性が強くプレイヤーの攻撃性を強くすることが危惧されています。そのため、年齢制限あり、プレイ対象は15歳以上となっています。つまり、保護者の許可なしに、小学生がプレイすることはできないのです。「友達もみんなやっているから」と言われると、我が子がかわいそうになってプレイを許可してやる親心も理解できます。しかし、社会のルールや決まりに、自分の都合でしかわなくてもよいのだということを教えていることになります。

また、画像がリアルなのでバーチャルと現実が混同し、日常生活においても攻撃性が強くなったり思い通りにならないことに対するいら立ちが強くなったりする傾向も見られます。私は子供たちに、例えゲームの世界とはいえ、人に銃を向けることに何の抵抗も感じないような人になってほしくはありません。人を銃で傷付ける行為も、自分の意に沿わない人を言葉で傷付ける行為ももとにある気持ちは同じだと思います。

幼い時から、「いくらやりたくても、だめなものはだめ」ということを教えることは、子供の養育や教育に携わる大人の責任だと思います。子育てに迷った時は、「こんな子に育ててほしい」という願いに立ち返ってみてください。子供の今だけでなく、10年後、20年後を見据え、自分自身の欲望やストレスをコントロールできるように育てることが本当に子供をかわいがることであると、私は考えます。

子供を育てる 温かい地域の目

今年度新たに「子供守り隊」に御協力いただいている方から、手紙をいただきました。「足元が少し不自由ですが、庭先に立ち子供たちを挨拶ができることはこの上ない喜びと感じております。(中略)朝夕の一言がお互いの元気のもとになることを信じています。」と、心温まる言葉が綴られていました。地域の方と挨拶を交わすことで、子供達が挨拶のできる人に育ってくれることを期待しています。

私が出会った素敵な子供達の姿

- ①1月15日に、学級役員の任命証と図工・美術大会の賞状の伝達式を行いました。学級役員になった子供達は、クラスのために働こうという意気込みに溢れる表情でした。高学年の児童は、任命証を渡されたとき、「ありがとうございます」と挨拶することができました。賞状伝達では、名前を呼ばれた児童が大きな声で返事をしました。もう一つ、式に臨む姿勢も素晴らしかったです。1・2年生も背中をぴんと伸ばし、しっかり前を見ていました。1年の成長を感じました。
- ②1年生3人が、「つなげる日記」のノートが1冊終わったので見せに来ました。1冊のノートの中には、家族と過ごした休日の出来事、登校途中に見つけたもの、授業などの学校生活の感想など、一人一人の子供の日常が記されていました。何気ないことも書くことで自覚し、書き残しておくことで振り返ることができます。大人も含め、書くことに抵抗を感じている人もいます。しかし、この子供達のように、見たまま感じたままに書くことを繰り返すことで抵抗はなくなります。書くことが日常生活の中に位置づいている姿がうれしかったです。
- ③2年生に、以前田富小から転出した外国籍児童のAさんが、再び転入してきました。学級の児童は、また一緒に学べることをとても喜びました。休み時間や授業中に、よく声をかける多くの児童の姿が見られました。久しぶりで戸惑っていたAさんですが、すぐに以前の姿をとりもどしました。子供たちの力はすごいなあと、改めて感心しました。国籍に関係なく、すぐに打ち解けいっしょに生活する力が、田富小の子供たちに育っていると実感した出来事でした。
- ④田富小では、全校で暗唱に取り組んでいます。先日1年生のBさんが暗唱カードのすべての詩や名文を覚えたと報告に来てくれました。「何か聞かせてくれる？」とお願いすると、「寿限無」の暗唱を聞かせてくれました。積極的に取り組むことで、子供の力はぐんと伸びるのだなと思いました。

田富小ニュース

書初め大会



3学期の初めの週に書初め大会が行われました。子供たちは、冬休みに練習した成果を発揮して、本番に臨みました。1・2年生は硬筆で、3年生以上は毛筆で行いました。冬休み前には弱々しかった線が、どの学年の子供

たちも勢いのあるしっかりとした線になっていました。目標を決めて努力し、成果を実感することが、子供たちには何よりの励みとなります。入賞の有無に関わらず、家庭でもほめてあげてください。

スキー教室



2月1日に、5・6年生のスキー教室が富士見高原スキー場で行われました。ゲレンデは雪の状態もよく、さらに田富小の貸し切り状態でした。5年生は初めての児童もたくさんいましたが、何度もリフトに乗れたのでみるみる上達することができました。6年生は2度目なので、余裕の滑りでした。冬のスポーツの楽しさを満喫した一日となりました。

